

～海鳴り遙かに～

上高だより

平成29年10月27日 金曜日
第7号



長崎県立上五島高等学校
NAGASAKI PREFECTURAL KAMIGOTO HIGH SCHOOL



「コミュニケーションカ」

教頭 古賀 巖

皆さんは周囲の人たちとどのようにコミュニケーションを取っていますか？話をしたり、目で合図を送ったり、身振りを加えたり、スマホやSNSも方法の一つでしょう。一般にコミュニケーションの種類には大きくバーバルコミュニケーション（会話や文字などの言語的コミュニケーション）とノンバーバルコミュニケーション（表情や声の大きさ、視線やジェスチャーなど非言語的コミュニケーション）があるとされています。普段の皆さんはどちらを重視していますか。これにはメラビアンの法則というものがあり、我々が重視するのは行動態度が55%、声の大きさや質が38%、言葉の意味そのものは7%だそうです。つまり人がコミュニケーションを取る場合90%以上は言葉の意味以外のところを重視しているのです。日頃の生活を思い出せばすぐに解ると思いますが、学校で友達と遊んでいるとき、先生の授業を受けているとき、家族と会話しているとき、その声の質や表情、ちょっとした仕草を見て、聞いて相手の思いや感情を理解しようとしているはずです。これは非常に大事なことで、日本経団連の調査でも会社への採用選考時に重視した点は80%以上の会社がコミュニケーション能力であり、これは10年連続トップなのです。ではどうすればコミュニケーションを上手く取ることができるようになるのでしょうか。一つ目は「自分の殻を破る」です。なかなか難しいかもしれませんが、コミュニケーションを取る上で大切なのは、相手に自分を知らせてもらうことが一番なのです。自分を隠したままでは相手もなかなか入ってこられません。「自分はこれだけしか…」とか「自分はこんな性格で…」など自分で作った自分の殻を破ることで、二つ目は「他者を受け入れる」です。例えば友達と若しくはグループで会話をする時にわざわざ仲を悪くしようと思って会話する人はいません。その場では「目的」や「想い」は共有できるはずなのです。ですからこれから先、周囲の人たちとコミュニケーションを取るときに「自分のしたい話をする」ではなく「相手が聴きたい話をする」という気持ちと、「相手の受容量を少しだけ配慮する」気持ちを持って会話をしてください。するとコミュニケーションがこれまでよりずっと取りやすくなりますよ。最後に我々が生活する上で「肝心なものは、目には見えない」ことが多いです。だからこそ相手の「想い」を理解しようとするのが大切になってきます。SNSでのコミュニケーションは簡単で便利かもしれませんが、本当の「想い」を伝え、理解するには不完全な物のように感じます。

各学年より

1学年（66回生）より

この原稿を書いているのは10月中旬です。生徒は橄欖祭（文化祭）の準備にむけて活動中です。この原稿が配布される頃には各クラスの発表をすでにご覧になられていると思います。ロミオとジュリエットを演じるクラス、ホラーな動画を作成しているクラスなど各クラス趣向を凝らしています。今回の活動を通じてクラスの輪がより深まったのではないのでしょうか。

さて、めっきり朝晩も寒くなってきました。上高も11月より冬服移行です。久しぶりに冬服に身を包む1学年の生徒たちを見ると4～5月からの変化が見て取れます。初々しかった春先と比べどこか大人びたような。遅くなったような人はやはり成長するのだと感じる今日この頃です。「小さなことからコツコツと」成長に特効薬はありませんので日々できることをやっていきましょう。

2学年（65回生）より

2学年普通科では、学級日誌に載っている新聞記事を日直が読み、意見を書くという取り組みを行っています。社会に関心を持ち、見識を広げてほしいという思いで始めました。

9月21日（木）

医師がかけつける手間がなくなって良かったと思うけど、看護師の責任が重くなったなど思った。遠隔の死亡診断を認める要件の③番が12時間以上というのは厳しいなど思った。万一ICUがこわれて間違った情報を流したら大変だから、やっぱり医師が目で見るとが一番いいと思う。

この意見は、『死亡診断を遠隔で可能にする指針を厚労省が通知した』という記事を読んだ生徒が書いたものです。遠隔診断の条件の一つとして、「離島などで医師が直接死亡を確認するのに時間がかかる場合」が挙げられており、離島に住む上高生として考えると多かたのではないのでしょうか。

高齢化に伴う「多死社会」と終末期医療が注目される中で、このような記事を読み、離島医療や高齢化社会、科学技術の発達について、生徒は見識を広げてくれたようです。

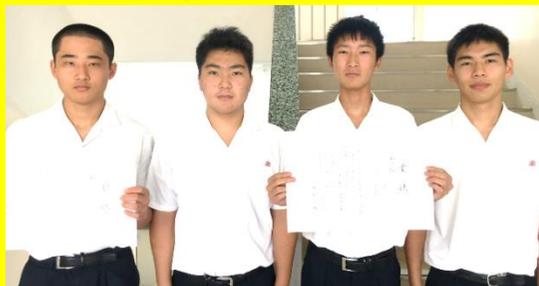
日誌でどのような記事を読んだのか、最近のニュースについてぜひお子様とご家庭で話をされてみてください。

3学年（64回生）より

「今の子どもは」と言い始めたら歳を取った証。しかし、今の子どもに感じることは「レジリエンス」の不足である。すなわち、「劣勢を耐え忍ぶ力」「敗北に耐える力」「敗勢から復元する力」である。人生にすんなりと目的を達成することなどあるはずがない。ところが今はちょっと劣勢になったが最後まで安きに流れる者が多い。しかし、実は劣勢・敗勢・どん底こそが浮上のチャンスでもあるのだ。豊臣秀吉が織田信長に仕えて木下藤吉郎と名乗っていた時、信長最大の危機である浅井・朝倉連合軍からの退却戦「金ヶ崎の退き口」において、最も危険とされる『殿軍（しんがり）』を務め、被害を最小限に抑えつつ見事に仕事を成し遂げた。これ以後の秀吉の大出世の契機となった戦である。歴史に学べば苦境の乗り越え方、逆境の耐え忍び方が見えてくる。入試のためだけに勉強するとは、実にもったいないことである。高校3年間の学びはお金に換算すると途方もない価値のある活動だったことを3年生は今理解してくれているだろう。

祝 九州大会出場決定

2年5組 野中 一慶 君
近藤 曜生 君
3年5組 杉山 拓海 君
浦 直希 君



◇平成29年度長崎県マイコンカーラリー
(上級) アドバンス 第3位 入賞 (初心者) ベーシック 第3・5位

第二・一種電気筆記試験

電気情報科1年生が受験した第二種電気工事士技能試験の結果が9月1日に発表されました。また、電気情報科

2年生が10月1日に第一種電気工事士筆記試験を受験しました。この電気工事士という資格は、低圧受電(600V以下)する一般住宅(第二種電気工事士)や高圧受電(7000V以下)で500kW未満の電力を使用する建物など(第一種電気工事士)の電気工事を行うために必要な資格です。製造業と同様に電気工事業も技術者不足が生じており、経済産業省電力安全小委員会の資料によると、2020年付近では第二種は1万人程度、第一種は4万人程度不足する可能性が示されています。1年生は初めての国家資格、2年生は部活動との両立で大変だったと思いますが、希望進路や部活動などの目標を明確にして、仲間と協力してひとつずつ乗り越えましょう。

乳幼児ふれあい体験

乳幼児ふれあい体験学習の第1回を10月2日(月)に1年3組が上五島高校 武道場にて実施しました。毎回多くの皆様にご参加いただきました。お子さまのこれまでの成長の記録を見せていただいたり、抱っこやおむつ替えをさせていただき、授業だけでは学ぶことのできない貴重な経験でした。自分が親になったときの責任や、これまで親から受けてきた大きな愛情についても感じることができました。参加して下さった皆様方にはこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。今後とも本校教育活動にご支援・ご協力をお願いいたします。今後は10月31日に1年2組が実施予定です。



CT100日前集会

10月4日(水)3年1・2組を対象に「センター試験100日前集会」が行われました。受験生56名とクラス・教科担当教員が一丸となってセンター試験に挑む覚悟を確認する場となりました。校長先生の激励の言葉では、保護者の思いについてと迷いを断ち切って学習に専念することの大切さをお話いただきました。その後、進路主任の近藤先生よりこの100日をまっさらなスタートとして勝負に挑む心構えをお話いただきました。学年主任からの激励の言葉としては、私が卒業した先輩たちの話を紹介しながら一生懸命頑張る者には必ず苦しく辛い試練の時があること、そしてそれをきちんと正面から受け止めた者にだけ栄光の日が来ることを伝えました。各教科の先生方より熱い思いのこもった助言と激励の言葉をいただき、最後に3年2組の野上勇汰郎君が「お互い焦る気持ちはあるけれど、1・2組一緒に最後までがんばろう」と決意表明をしてくれました。本当の勝負はここから。生徒・教員が一体となってがんばっていきます。



大会結果

美術部 ◇第61回長崎県展デザイン部門

入選 2年1組 畑田 一穂 さん (左)
2年4組 竹谷 佳弥乃 さん (中央)
2年5組 阿野 景祐 君 (右)

◇平成29年度緑化推進運動ポスター長崎県審査

入選 2年1組 吉村 萌 さん (右)

◇平成29年度健康づくり標語・ポスターコンクール

知事賞 2年2組 佐藤 多恵子 さん(左)
保健者協議会会長賞 2年4組 石田 美梨香 さん(中央)

◇平成29年度 長崎県高等学校新人陸上競技大会

400mH	第7位	2年4組	柴垣 優太 君		
走幅跳	第5位	2年1組	魚住 玲 君		
走幅跳	第7位	2年4組	森下 大 君		
三段跳	第6位	2年4組	森下 大 君		
8種競技	第8位	2年5組	小田 一輝 君		
走高跳	第5位	2年4組	山下 桃香 さん		
7種競技	第8位	1年3組	法村 あかり さん		
<リレー>	第4位	2年1組	魚住 玲 君	2年4組	柴垣 優太 君
4×400m		2年4組	森下 大 君	2年5組	日高 太陽 君
男子トラック	第6位				

◇平成29年度 長崎県高等学校九州新人陸上競技大会結果報告(沖縄県開催)

1500m	4分17秒33	組17着敗退	2年3組	山田 大成 君
3000mSC	10分3秒64	組8着敗退	2年3組	山田 大成 君



薬物乱用防止講話

10月5日(木)に講師として、長崎県警察スクールサポーター多々川慎二氏をお迎えして薬物乱用防止講座が開かれました。はじめに危険ドラッグや大麻といった薬物がどのような形で若者の前に現れてくるのか、また薬物を使用するとどのような症状が出るかを描いたDVDを視聴し、その後、講話をいただきました。講話の中で映し出された薬物乱用者が書いた円や覚醒剤の症状として現れる幻覚の写真などのスライド資料は生徒に強烈な印象を与えていたようです。次に薬物に誘われた際の断り方についても具体的にご指導いただきました。実際に生徒を指名し、ロールプレイをしていただいたことで生徒も自分の事として真剣に取り組むことができました。将来島外で生活する際、もし薬物をすすめられるようなことがあっても、しっかりと断る上高生であってほしいと強く願います。



上五島地区学習交流会

本校を会場に、五島・奈留・宇久・中五島そして上五島高校の受験生約70名が集い『五島地区学習交流会』が10月7日～9日の3連休に行われました。五島列島の高校生たちが一堂に会し切磋琢磨する企画で、文理それぞれの講座が実施され、日常とは違った新鮮で緊張感のある学習が行われました。多くの講座ではアイスブレイクの意味合いも兼ねて他校生徒との混合班を作り、難関大学の二次試験対策などを、話し合い活動を通して深めていく姿が見られました。

11月の行事予定

1日(水)	高総体開会式(駅伝)
2日(木)	高総体(駅伝) 避難訓練
3日(金)	教習所Ⅱ期生入校
4日(土)	①②③対外模試
5日(日)	②③対外模試
7日(火)	能・狂言公演鑑賞 県民大学講座(国語)
9日(木)	交通講話
10日(金)	漢字検定
11日(土)	③土曜学習会
18日(土)	③大学別プレ、CTプレ
19日(日)	③大学別プレ
21日(火)	あいさつ週間(～24)
23日(木)	五島地区PTA研修会
25日(土)	③センタープレ1
26日(日)	③センタープレ1
27日(月)	2学期期末考査
～30日(木)	